



行脚文集

陸奥 出羽 越後 越中  
加賀 越前 若狹 丹後  
丹波 山城

卷

~ 5  
2873  
1



へ6  
2873  
1



日本行脚文集卷之第一

自序

無名と心衛門アガナ シシエモシと一獨ヒトリ乃虚靈主ウツホギミあり。け相長ワキナガ  
 又ほつらねく世ふ無量サニクの現アユコト ナヒト。夢ユメ。迷マヨ。悟トモのまじや  
 あらむ。さふと物みお。物よほつらねくどとりつら  
 なり。形カタチあるものき。家カミにつらつら。相カミなる物モノを。  
 言物コトモノつらつら。大本ホシとよをれ。申ウタも又申  
 よほつらねく。只ほつらつら。つらつら。つらつら。つらつら。  
 や思ふも一物モノなり。ふと似つら。いさや。およかど  
 かく筆序フデツギは言コトて。かた。あ。天アメと。さふらぬ

へ5  
2873



地<sup>ニ</sup>又<sup>ハ</sup>鼻<sup>ハナ</sup>法<sup>ホウ</sup>とらきて。起<sup>キ</sup>念<sup>ネン</sup>生<sup>ショウ</sup>滅<sup>メツ</sup>乃<sup>ノ</sup>畔<sup>ツ</sup>塘<sup>トウ</sup>と平<sup>ナラ</sup>  
 地<sup>ニ</sup>自<sup>ジ</sup>他<sup>タ</sup>乃<sup>ノ</sup>境<sup>カミ</sup>藩<sup>ガキ</sup>をやめり。野<sup>ノ</sup>平<sup>ヘイ</sup>等<sup>トウ</sup>の大道<sup>オウダウ</sup>は  
 何<sup>ナニ</sup>もぞりや。万<sup>マン</sup>物<sup>ブツ</sup>吾<sup>ガ</sup>體<sup>タイ</sup>あり。人<sup>ニ</sup>もな兄<sup>ケイ</sup>弟<sup>テイ</sup>たり。  
 願<sup>ガン</sup>會<sup>エ</sup>とあり。多<sup>タ</sup>戒<sup>ゲイ</sup>。是<sup>コト</sup>戒<sup>ゲイ</sup>歩<sup>ポ</sup>に障<sup>サマ</sup>るをれま。  
 さつれ物<sup>モノ</sup>あり。物<sup>モノ</sup>とく融<sup>ユウ</sup>通<sup>トウ</sup>。心<sup>シン</sup>衛<sup>エイ</sup>門<sup>メン</sup>の乾<sup>ケン</sup>坤<sup>コン</sup>  
 乃<sup>ノ</sup>正<sup>セイ</sup>主<sup>シュ</sup>。物<sup>モノ</sup>理<sup>リ</sup>乃<sup>ノ</sup>陽<sup>カウ</sup>父<sup>フ</sup>陰<sup>イン</sup>母<sup>ボ</sup>なり也。物<sup>モノ</sup>理<sup>リ</sup>果<sup>カ</sup>して  
 何<sup>ナニ</sup>ものぞ。只<sup>タ</sup>心<sup>シン</sup>一<sup>イツ</sup>也<sup>ナリ</sup>。心<sup>シン</sup>果<sup>カ</sup>して何<sup>ナニ</sup>もれぞ。阿<sup>ア</sup>阿<sup>ア</sup>  
 阿<sup>ア</sup>と口<sup>コ</sup>あり。喉<sup>ノド</sup>を指<sup>ササ</sup>け。匿<sup>クニ</sup>路<sup>ロ</sup>よ。吾<sup>ガ</sup>心<sup>シン</sup>乃<sup>ノ</sup>心<sup>シン</sup>  
 道<sup>ダウ</sup>。崇<sup>タカ</sup>真<sup>マコト</sup>思<sup>シ</sup>てふ。行<sup>アン</sup>脚<sup>キョウ</sup>大<sup>オホ</sup>路<sup>ロ</sup>あり也。其<sup>ソノ</sup>大<sup>オホ</sup>路<sup>ロ</sup>果<sup>カ</sup>  
 していげとせ。遠<sup>トウ</sup>とほし。近<sup>チカク</sup>とあり。須<sup>オホキ</sup>弥<sup>スミ</sup>くも。

芥<sup>カイ</sup>子<sup>シ</sup>のくじ。先<sup>サキ</sup>よりとせと。又<sup>マタ</sup>是<sup>コト</sup>の期<sup>キ</sup>はし。  
 始<sup>シ</sup>終<sup>シュウ</sup>をほくぬき。おほくくく。空<sup>カラ</sup>。寛<sup>ユラヒカ</sup>器<sup>キ</sup>な  
 ろうれ心<sup>シン</sup>け心<sup>シン</sup>衛<sup>エイ</sup>門<sup>メン</sup>。二<sup>ニ</sup>儀<sup>ギ</sup>兩<sup>リウ</sup>匠<sup>シヤウ</sup>乃<sup>ノ</sup>計<sup>ケイ</sup>主<sup>シュ</sup>師<sup>シ</sup>よわ  
 せて。五<sup>イ</sup>乃<sup>ノ</sup>系<sup>ケイ</sup>車<sup>シャ</sup>を仕<sup>シ</sup>り。吾<sup>ガ</sup>心<sup>シン</sup>乃<sup>ノ</sup>五<sup>イ</sup>運<sup>ウン</sup>象<sup>シヤウ</sup>  
 を調<sup>テウ</sup>う。免<sup>メン</sup>。眼<sup>ガン</sup>。耳<sup>ニ</sup>。立<sup>タツ</sup>。居<sup>イ</sup>。自<sup>ジ</sup>在<sup>ザイ</sup>。循<sup>クン</sup>環<sup>ヅン</sup>を舞<sup>マヒ</sup>とら。  
 心<sup>シン</sup>拒<sup>ケツ</sup>。摩<sup>マ</sup>事<sup>ジ</sup>なると。奇<sup>キ</sup>異<sup>イ</sup>物<sup>ブツ</sup>を。生<sup>シヤウ</sup>在<sup>ザイ</sup>。誕<sup>タン</sup>。言<sup>ゴン</sup>信<sup>シン</sup>信<sup>シン</sup>同<sup>ドウ</sup>断<sup>タン</sup>。  
 幻<sup>クワン</sup>乃<sup>ノ</sup>系<sup>ケイ</sup>縛<sup>バク</sup>。一<sup>イツ</sup>。夢<sup>ム</sup>乃<sup>ノ</sup>車<sup>シャ</sup>は。鋪<sup>ホ</sup>法<sup>ホウ</sup>は。まんとるを。を  
 ちくく。心<sup>シン</sup>や。心<sup>シン</sup>も。人<sup>ニ</sup>も。れ。境<sup>カミ</sup>の。居<sup>イ</sup>。と。か  
 ちくく。曉<sup>スガシ</sup>あり。色<sup>シキ</sup>弗<sup>フ</sup>。空<sup>クウ</sup>鐘<sup>ショウ</sup>は。の。昔<sup>キヨク</sup>より。處<sup>キョ</sup>道<sup>ダウ</sup>乃<sup>ノ</sup>  
 解<sup>カイ</sup>道<sup>ダウ</sup>と。逸<sup>イツ</sup>。く。人<sup>ニ</sup>我<sup>ガ</sup>乃<sup>ノ</sup>僭<sup>ケン</sup>よ。ふ。う。う。う。り。



初脚とんふちをまうり。勅行何ぞや。朽心窓小月  
 本まひけ。虱皮乃禪鞠といひて。蛛網乃繩床  
 小醫一。暗天禪。橫空觀のいとほしくよ。幡帳の  
 爪芥と塵と。白駒鞍と削。子子乃。槌とくわとを。  
 風輪うささと油瓶。於草鞋よ。鬘。褊襖は汗して  
 何の益有る。吾とあはれ。天然と出。自れを止。今  
 亦此初脚文集何のさあぞ。忘とて乃用るも  
 あらと。順行旅驛乃貴人。逸仁の自ふ。予が脇杖  
 一と。一撮乃糧。恩代。存ひ。一。礼儀。小割。てんと。約。後  
 一物う。世れ毒とすの。ノ野を。生質の。家。言よ

志のり。まもれ。僻者といひ。元來。天。凡。高。言。乃。塵  
 言。流。風。さ。れ。も。勢。字。連。續。と。も。不。控。物。ら。る。初。と  
 を。規。矩。や。と。も。所。り。賢。愚。法。法。と。も。他。一。等。分。に  
 して。古今。盈。具。た。り。一。磨。養。神。も。嘲。諷。徒。も。具。り  
 志。成。離。ぬ。一。氣。同。腹。の。露。の。風。共。さ。れ。も。誰。後。ふ。ら  
 他。何。を。此。よ。う。醜。む。さ。る。す。あ。ら。む。五。十。而。知。天。命。の  
 此。も。可。ぬ。毒。子。も。あ。ら。く。爵。祿。乃。望。も。な。り。か。く。て。世。よ  
 不。住。も。不。住。あ。ら。む。と。や。れ。り。荒。爾。く。れ。さ。の。あ。を  
 太。鵬。驕。慢。乃。擗。字。の。林。頭。は。冨。一。が。今。日。の。中。小。て  
 心。下。上。の。せ。と。す。ほ。ろ。す。ま。と。愚。海。乃。燈。臺。を。見

ほを真ニツカカサふ小井落ドロリヲチく。お生モト斑オラフカ鱧ニとちり。混沌コトニ乃一水  
よ。鯉コイを阿アツク不フく。々々ツツやうぶらう。澳ウチふもはくも。磯イソもも  
ふフ。生セイ乃ノ藩モ枕マクり。漂タモヒ交マシ健クく。くも。額カシつツく  
て。又マタ仰オホシのノふフを。耽タカ居ルり。くクやまマくク。

于時元禄二歳ホシ舍シ屠ト維イ大荒落オホアラフ相行アヒキ祥日サキヒ

大箭數オホヤ寓言堂オホコトノ三午ミヌ風大徒オホカ友翰トモノ部ベ

湖山飛散人無不非軒吞空法師ミヅノ

本朝十二景

- 第一 駿河 田子タコ 二 奥州 松島マツシマ 三 筑前 箱崎ハコザキ 四 丹後 橋立ハシタテ 五 紀伊 若浦ワカウラ 六 近江 鳥湖トリウミ
- 七 安藝 巖島イワシマ 八 出羽 蚌象ヒナガタ 九 伊勢 朝熊アサクマ 十 出雲 松江マツエ 十一 播磨 明石アカシ 十二 武藏 金澤カナザ

日本行脚文集國付并文章題號目錄

- 卷一 陸奥 出羽 越後 越中 加賀 越前 若狹 丹後 丹波 山城 ○誹諧之文 日用歌

行脚誓語 平泉之文 湯殿山記 弘智法印 五智如來

蹴鞠長歌 相本梯文ソノノ 立山禪頂 金澤繁榮 白山山シラネ上

茶店論 帝都繁花 文字廢美 運尚僧正詩

- 卷二 近江 伊勢 志摩 紀伊 ○竹生島詣 射和境地 蓮生寺

獅子楓文シシノ 十王山 伊勢白粉イセ 鍛治祖神カヂ 松坂マツカ置寺ヱ

神法樂長 醫骨文 謠行 朝熊勝地 朝熊詣アサクマ詣ヨミ

戸羽富景 熊野道中 瀧箆詞タギ 若浦遠景 根來御廟

- 卷三 紀伊 大和 伊賀 河内 和泉 攝津 播磨 備前 備中 備後 安藝 周防 長門 豊前 豊後 肥後

○高野

明遍德行 秀翁序詩 西蓮寺記 以安亭額  
琴之行 筆道文 有間湯記 明石景眺 靈芝文  
鍼術文 曾祢松記 貞繼狂詩 赤間關耳海章  
遊女行 彦山遠眺 龜石坊庭 宇佐境内 羅漢寺  
阿蘇煙景

卷四

肥後 肥前 筑前 長門 周防 石見 出雲

○娵諫章 大鞞文 溫泉山

長崎境地 菊養亭 丸山艷文 忍銘 隨有堂序

林道榮遺 逆流序詩 慧舟詩 道榮長編 淳客詞書

紫琳即興 安樂寺文 宗象社 豐浦山 人丸寺

大社境内 日御崎

卷五

出雲 伯耆 美作 備前 讚岐 阿波 土佐 伊豫 播磨 淡路

○一向宗風 月照寺記

秋轉閣 太山 菰鐵園 四國邊路 五臺山

蹉跎寺 菅生山 誕生院 金毘羅山

不二額記 一柳軒序 盆山景文 列之小序 淡路島文

鳴門眺望

卷六

近江 美濃 信濃 上野 武藏 相模 伊豆 駿河 甲斐 下総 常陸 陸奥

○賤家雨夜

寢覺床 戸隱閑宿 碓氷遠景 并妙儀山 江戸卷平

道普閑居 鎌倉巡見 臥竜松記 大山境地

熱海温泉 圍碁記 寔來迎佛 富士諸身 延山

惠林寺 鹿島景 筑波山上 冨家行 會津詞





記行法名入乃傳作さう也。遊友と喚一。一室の奥  
と傳。通り一篇のぞいふやうなむ十年れ春秋するが。  
能風も目録退く變化しぬ。元來御我とるむ。國人所  
こ乃國傳よとらうはりてはすまうりし。世人乃傳も皆  
初柳の撰抄れもや。於又あらはし。寺社の御記。山  
河眺望乃記。をいふ。録て一作乃行。法書れ。弟書。其は  
記。一切抄を。齊徐の。戲言。等。ふ。う。せ。と。纏。と。懐。目。記。小  
や。と。免。漸。と。法。書。一。ゆ。れ。と。紙。數。六。百。余。挺。よ。り。ぬ。て。の  
い。ふ。せん。木。部。よ。り。て。の。松。領。も。い。う。せ。り。の。不。必。と。れ。る。  
傳。の。つ。と。長。編。は。一。さ。う。も。さ。ま。た。と。又。按。聖。一。て。書  
改。し。ふ。四。百。枚。う。り。ぬ。是。も。あ。は。し。と。と。書。め。ふ。ぬ。と。採  
て。金。部。七。卷。に。な。り。ぬ。さ。ま。づ。一。は。一。と。の。曉。と。の。略。

つひ。不。連。不。對。乃。と。さ。う。い。ひ。大。や。う。和。訓。と。法。書。と。拾。ふ。と  
い。ふ。も。時。勢。難。詞。の。う。ま。う。ん。あ。う。ぬ。あ。よ。い。初。れ。程。と。り  
て。う。ま。う。の。は。と。と。自。作。せ。事。も。は。ら。う。只。細。書。乃。と。さ。う。と  
う。い。む。も。あ。い。よ。イ。ロ。オ。ホ。ワ。ハ。の。傳。も。あ。わ。と。と。法。と。用。て  
は。う。い。ふ。も。あ。い。よ。一。と。さ。う。の。難。字。を。和。語。と。あり。高。言。也。實。書  
不。用。に。て。戲。中。の。虚。也。う。つ。暮。老。乃。法。書。長。編。よ。退  
局。と。省。を。さ。め。と。う。わ。か。く。乃。撰。抄。と。い。ぬ。あ。う。て。世。人  
の。目。お。た。め。と。さ。や。○。世。に。宣。な。う。と。う。わ。く。と。れ。と。い。ふ。事  
難。と。能。家。に。進。信。一。て。古。今。乃。法。書。と。傳。廣。よ。と。い。ふ。い  
う。か。と。さ。う。い。は。の。比。ら。う。と。や。る。と。ん。能。風。御。記。と。て。面  
善。と。い。ふ。く。よ。ち。り。難。文。乃。國。を。書。乃。國。心。は。あ。い。は。く。と。物  
て。靜。な。う。い。む。と。と。れ。を。密。小。誦。や。う。う。不。編。と。れ。も。う。つ。つ

三十一

能登乃其入るれどさうん。能登を美法乃其家さし。ら  
るるもさくもたまきありと。古法をけりて。いふ事一と。と  
れ。好む。あり。いさ。ぬ。も。と。長。く。一。ふ。も。後。の。れ。さ。れ。字  
な。も。時。も。け。り。服。第。三。乃。指。も。さ。く。古。法。古。法。も。も。極。ひ。  
ま。り。て。付。合。は。れ。と。除。く。と。ふ。ち。と。古。代。す。り。たり。た  
ん。と。す。と。ま。化。一。と。氣。の。物。と。さ。り。と。り。も。お。お。お。  
り。と。か。く。れ。ど。古。法。と。さ。り。と。肩。負。と。か。り。と。潤。は。月。さ。ら。さ。ら。あ。  
す。り。と。さ。ら。も。お。ち。と。愚。老。と。さ。ら。も。他。の。下。風。お。は。く  
と。ら。り。時。と。乃。風。お。と。さ。ら。も。お。ほ。り。と。一。只。さ。れ。も  
う。と。く。と。さ。ら。も。お。ち。と。ほ。と。ま。お。さ。ら。も。道。え。せ。も。乃  
字。後。小。陰。不。音。は。あ。り。と。目。と。さ。ら。も。乃。嘸。や。り。と。野。み  
か。と。ら。思。ふ。が。但。も。是。も。又。肩。負。と。さ。ら。も。乃。大。や。う。と。お。か。よ

は。う。あ。や。も。○。さ。て。け。記。行。乃。又。や。う。冠。お。は。○。常。記  
秘。馳。望。乃。又。ま。也。又。韻。小。な。氣。の。な。た。き。皆。思。老。作  
り。と。け。り。後。の。作者。乃。か。白。に。皆。思。老。服。を。と。付。け。り。  
鬮。紙。を。い。ら。ひ。て。略。と。○。漸。と。思。い。さ。ぬ。と。後。を。以。り。も  
花。乃。後。く。は。形。え。ん。と。り。と。中。に。も。予。が。又。を。後。  
一。能。得。所。和。風。軒。加。之。丈。亦。望。に。り。り。月。次。乃。奈。り。一  
轉。成。余。波。一。其。詞。よ  
○。俳。諧。文。 鴨。慮。月。次。乃。神。道。と。直。風。雜。と。元。わ。り。と。  
始。け。り。い。震。直。乃。儒。道。の。不。常。平。平。と。元。と。り。て。中。に。あ  
り。り。月。氏。の。佛。道。と。意。悲。任。心。を。元。と。り。と。終。と。後。は。三  
元。の。如。中。終。習。合。一。連。の。木。道。を。り。さ。れ。と。美。法。の。善。書。え。  
寓。言。實。語。事。理。不。二。門。と。出。と。入。と。乃。文。道。なり。中。に。も



乃勅釋トクサツもハナつに。猶愛トシニは世セ乃得失トクシツにもたづむ事コトあり。其暮クノ三ミ窓マダ思ヲふ後ノチとて。誰心トコの常トコ家ノふフ。説セツ造ゾウ次ジ顛テン沛パイ。皆ミナ是シ。一イツ字ジ。松マツ風カゼ水スイ音オン皆ミナ是シ能ノ吟イン。美ミ色シキ一イツ類ルイ向キョウ。神カミ代ダイの月ツキとケお乃ノ。曙アカサキ。儒ニホ自ジのシひりも今イマ乃ノ昼ヒル。三ミ舍シェ乃ノ虎コもモい昔イダシとト吹フく。三ミ時ジ不可イカニ得テ乃ノチ一イツ句ク目メありたり。於オこノ不フ生セイのノ翰カンとトかざし。ほよホ阿ア呼ウのノ暮クとトかき。夢ユメのノうウとト世セ乃ノチ平ヘイ舍シェとトかざし。ひヒあアめメとトつツ。うウつツくク一イツ阿ア法ホフとトあり。只ヒツひヒるルこノと。吾オレも阿アとト思シふとト知チふ。然シカド法ホフ師シハハとトあり。世セ乃ノチ平ヘイ舍シェ一イツ月ツキ花ハナやヤ。誹ヒ乾ケン坤コン乃ノチ箱コト傀儡ケイ。昨ノチ思シのノ意イ成ニ。曙アカサキのノまマ。仙臺センダイ和ワ風フウ軒ケン。加カ之ニ。〇愚オロシ志シがガ。礼レ弟テイ子ジをオまマ。一イツ言ゴン得トク寶ホウとトいイつ物モノとトかカつツやヤりリじジ。とトくク和ワ風フウ乃ノチ於オふフ物モノとトいイつ情ニョウとトいイつ。昔イダシ此コノ月ツキ用ヨウ款クワンとト形カタチはハふ

正直テイジツ乃ノチ二字ニジ哉ヤ。每ツネニ朝アサ目メおオじジうウひヒ掌テにニうウさサ彰シヨウとト吾オレへヘ一イツ世セのノ浮ウ沈シユン人ジンのノ嘲チョウほホよヨとトまマ九ク思シ一イツ言ゴンのノ智チ有ユ根コン本ボン。ホホ儀ギやヤ。社シャ信シン教キョウせセぬヌ人ジンをオもモるル也ヤ。社シャ信シン教キョウせセぬヌ人ジンをオもモるル也ヤ。親オヤ孝コウもモ天テン乃ノチ加カ護ゴありアリ。えエとト是コト付ツキつツり物モノのノ命イコトをオもモるル也ヤ。善ニキ小コほホこコ。べベ物モノおオつツそソ。又マタまマるルれレ。是コト信シン然ニ乃ノチ一イツれレ金キン言ゴン。多タ欲ヨクもモ。弟テイ法ホフ邪ジャ魔マ乃ノチ根コンをオもモるル也ヤ。自ジ心シン之ノ失シツ乃ノチ得トク失シツとトいイつ也ヤ。毎ツネニ日ニチ乃ノチ此コノ業ゴウのノ勤ツタマ悔ケイ忘ワイとトいイつ也ヤ。昼ヒル夜ヨ風フウ雨ウ乃ノチ天テンのノ道ミチ也ヤ。又マタ是コト句ク。花ハナをオもモるル也ヤ。月ツキもモ冷ヒヤ也ヤ。人ヒトもモ是コト然ニにニ。右ミダリ乃ノチ一イツ軸シツ寢ネ所ショ乃ノチ圖ズとトいイつ也ヤ。毎ツネニ日ニチ一イツ吟インもモつツ也ヤ。一イツとトいイつツもモいイつツ也ヤ。右ミダリ乃ノチ一イツ軸シツ寢ネ所ショ乃ノチ圖ズとトいイつ也ヤ。毎ツネニ日ニチ一イツ吟インもモつツ也ヤ。一イツとトいイつツもモいイつツ也ヤ。

〇行脚ゲイキョウのノ覚悟サカトとトてテ。自ジ戒ゲイ自ジ慎シン乃ノチ誓チカゲ語ゴとトいイつ也ヤ。首クビふフけケ。條ジョウ目メ一イツ不フ惜シヤク身ミ命メイをオもモるル也ヤ。今イマ日ニチ切キつツ境キョウ。無ム常ジョウ運ウン夢ム幻ケン泡ハウ氣キとトいイつ也ヤ。

仙臺和風軒

- 一色欲ヲ欲ク多ク欲ト可キ難事 附情慢心可キ事
- 一五戒勿違也。但し慾満五戒乃し二戒を事にするべし。他乃  
る善クするは偽をも可なりと事
- 一賊退利多し小を以て裸よと後とく。若し殺害よとより首と  
ろつて取れ。死て敵と取れ。死を附守れ小刀乃し又と取る後
- 一衣食居ん天るふまうのへ。苗子のむを可キ控事
- 一船賃木ちん茶代少も秘せりまうと事
- 一中途のくも凶非人よ悪態と如く。痛人よ抱業と事
- 一又業下らよまふさう。但し他人のくも業と不機  
一言も否く。何れと事。自作乃し他作のくはさるる事
- 一馬を馬がふのころ。但し及ら上のもつれむ
- 一乃九と像佛神よ誓ひ心戒と事。其の也。其は

御家心ご。む。御家心ご。む。御家心ご。む。

む。御家心ご。む。御家心ご。む。御家心ご。む。

○飛くは尸の事。任他。任他。任他。

後四旅宿の中 産物辨別村和村大徳氏三子風判

説は乃脚成松乃よをけす。む。御家心ご。む。

ろ。む。御家心ご。む。御家心ご。む。御家心ご。む。

○天和三癸亥。揚月サ五日。門出乃真り。百韻満座乃句

い。や。鹿法。む。一。夜の。賣。僧。坊。

す。ろ。む。御家心ご。む。御家心ご。む。御家心ご。む。

く。乃。朋。友。救。百。乃。む。御家心ご。む。御家心ご。む。

よ。思。ひ。お。ね。む。御家心ご。む。御家心ご。む。御家心ご。む。

ろ。う。あ。ま。む。御家心ご。む。御家心ご。む。御家心ご。む。

くろくもやとぬ世の枝の更夜とまんりいれそく忌  
くろくもや。服 刻どくたうきのゆふいあぐ。と服を脱いで  
離襟くろくもやとききざりぬ。幸いうらうらあされぬ他もす  
多ぬ初脚と思ひいさ。十五午位され。念彼とて。凡菴世む  
事とて肯ぞ。末乃ききいばとと驚りし。附翼回れ乃おな  
あり控らん。いうさぬ吾ん異同あり。け種子我思ふよ。いほごや  
おもほほど塵を乃亦園ふとべつ。天地人乃三筋町と懸を  
とられぬまご。けいぬあさ。化蝶を乃撃おとれ月むる感  
おほよ撒らも。花や紅雲のさるせぶりよ。後一ほく。白雲  
軽う後乃明德とて封乃まふ遺捨。吾始おぼく下務の  
如き宝珠も吹あまんとも。む。目成経てむも。天が形見  
乃離瘡瘡り。いつまご。風月乃扉に記依しむ。生。詩集が  
きききき

瘦我又組さうほとあぐ。夷原が負版をうろ。方人よと  
なご。不可不偏中同や。必陰費乃安坐寒。さし生る  
乃七房あり。あつらひせ。世も又定はするも。天道林の榎  
檜藤十方空穴乃啼泣来。風ふらぐせ。く。檜と。ちや。同和  
啼らん。樹よ。指の血をさ。け。花よ。世に。紙短尺。  
い。や。ま。夷。あ。ち。さ。ら。り。少。陰。さ。て。と。ん。ご。我。松。竹。を  
ち。お。か。ん。ご。う。あ。ゆ。る。ら。せ。お。と。と。と。め。ね。る。乃。雪。の。玉。田  
横。お。乃。も。ま。れ。弱。う。さ。世。乃。照。を。徳。後。乃。檜。あ。ね。の。ね。も。あ。き  
に。と。と。と。も。た。乃。集。あ。く。さ。多。ぬ。何。の。平。泉。も。も。る。館。乃。は。お  
の。ね。も。あ。く。さ。空。の。清。嵐。波。う。た。め。と。や。吟。ず。ら。む。判。官。具。負  
を。後。切。ら。乃。血。ふ。ら。う。言。ま。れ。田。長。よ。と。う。ん。あ。ぐ。く。爪  
揚。を。打。お。ほ。と。衣。開。の。ち。中。ま。寺。乃。朧。壁。ほ。ご。と。を。ん。ふ。ら。う

○平泉文 當山を行基開闢より。法繁乃其地として真  
 天二宗乃梵園やむとあると香齋ありていけり。都松枝を  
 密々清松枝かき。茶室露さくくを。末法の履を淨せ。  
 松木の一燈歌として古久きり。石室舎衣いけり。堂禪  
 乃園とけり。夏房千舎いけり。佛塔乃室と成ふり。され  
 ども室小五百徐蒙の形けん三回一字の光堂あり。世銅梅  
 檀乃良具代々々々。彩漆軒。極潤楯。乃る不。睫乾さ。いけり。よに  
 吃。い。てや大窟乃。洞月も。七寶莊嚴乃。芬楹の雜中に  
 ろり。言天乃。白日を。雲霞を。乃。佛眼の羽帚とさる。け香  
 花乃。壇下。石室の。中。清衛。基衛。秀衛。三將。弘山西西の  
 香。登。佛。心。不。愛。乃。は。真。室。也。信。よ。物。も。さ。る。ふ。り。け。り。形  
 又。も。神。龍。乃。枝。乃。さ。り。さ。り。が。秘。密。二。季。の。花。種。を。并。さ

梯乃長の風小。水く。の。雲。乃。長。霧。を。は。り。ひ。觀。禪。兩。句。此  
 月。空。々。々。港。井。松。の。弓。勢。嵐。小。ま。ま。く。回。迷。の。言。を。と。除。く。氣  
 城の儀。堂。も。忠。名。代。乃。後。執。り。曉。さ。る。館。れ。猶。龍。の。  
 功。と。三。軍。乃。上。彌。彌。本。乃。猶。さ。り。か。く。中。の。も。と。獲。の。新。戸。を。  
 物。冷。し。き。魂。枝。の。憶。雨。さ。る。天。乃。大。而。國。七。を。今。も。い。あ。る。  
 於。如。約。乃。牙。と。わ。り。て。石。藏。乃。名。を。お。と。す。の。は。塔。や  
 月。花。螢。こ。や。三。衛。の。ひ。り。堂  
 鏡。心。乃。新。運。り。り。夜。川  
 尻。は。老。れ。や。乳。母。松。乃。時。を  
 け。お。り。乃。古。藤。院。中。此。什。物。果。由。の。昼。軸。暗。信。達。谷。窟  
 物。す。こ。く。耽。捨。水。沢。花。寒。鬼。柳。乃。南。さ。り。乃。細。布。終。際。南  
 郊。乃。城。下。盛。園。小。入。り。さ。る。莊。園。肥。腴。の。地。福。園。村。八。陽。山。乃。海。に

はほむり。市川の陸河のきふ賑々り。きふ来居使乃報友太田率  
因子と睨む。すいふ乃中より。大乃とむむにまかむふこいふ  
獲るや流しむや。いふ西行よやといふをきて。きふとて案内と

一口弁かあゆふほくま

南部風岡大田氏

弁は花泡乃茶花餘あり

幽間

〇三十一  
まのむらうふて 慶徳二のあにむらふの神を来にり

杖とくまの夜より

全

右二巻あゆみ満軸しとく心乃結柳打まぬ連枝乃中  
かくりーけむる東國の宗匠それく種乃播者花実豊倍  
乃雄哲なりかくて松前も後了。夷子結といてくくちと  
よ諫ていふ中といは後了。右押崎乃片塩七重乃灘ハ片時  
も融たく。鳴門乃塩濃十倍乃潮漲なり。うて技業切御

乃大氣漸降る三よりくね難波と物せんや。ひいふあまのり  
と強く悪忌脱しと止あそまふさくも心松ぞゆまか  
ばり嘆大橋まねむ。ゆり来り自和乃大小もまねど。あや  
一の円船咄よげ度き極。予昔秋田ふゆりし時津程  
思ふさくりーけに。あ演乃入い。善知る安瀾乃言はる我  
は海上悠々夷乃昆布海乃後一はつも。それらとあふ  
かん。いふ松のきりり門来りあたまうさねえ。度とがら  
つ。又圖方角を二指して。あーほぐまねいぬ。さうづとてや  
陸奥出羽乃塩を保内味上七重のこ板。鋭意乃あし歯  
を踏。卯月のあま又尺乃ほろふ。まじりせし身柱  
まじり。からく。仙小角館村川氏孫水よりあまの飛  
たもあまふ。七重のあま。



かむ責ふは世同き一ほくそと

宿村川氏

けし途を那へるの月の

残水

くも携投乃 笠乃指くしあ方をささば郭一云

同

いふきくしむ國に終乃蜀魂

本間氏

三藤

野を何せもとあひきる規

安藤氏

似水

猿筆やなうねをさきとむ 杜宇

鶴氏

八弄

ち一向く又服自尔小序して一神宛形見しう略

同又月朔日。お江加羽氏性竟居さハ。予行る乃有るれどめづ

ふ密一給。神種乃。清波をくふ十日より休し。人と信ひ。金

沢乃権。目洗川より。片目。鮎をど思ふ。まうり

血ふたうやかん。多難とほくそと

六江伊藤氏

平吟

鼻田乃。多眼。肥は。切柳。人

けし。隣。摸。多村乃。郡司。大部。氏。秋田。佐行。家。乃。長。臣。と。て。

文。書。は。傳。乃。雄。士。と。ふ。風。雅。乃。逸。人。多。り。し。が。余。が。初。脚。を。踏。へ

空。多。し。て。る。事。を。多。び。唯。國。の。勢。ふ。思。れ。ど。世。を。ま。り。し。ま。ふ

と。う。松。並。の。志。を。感。じ。と。碑。銘。れ。う。ん。葉。乃。灯。と。ね。ね

落。穂。あり。秋。田。より。下。は。猿。乃。唇

羽北横手

内記

へし。か。ん。あ。ね。蟬。雪。の。月

同所赤坂氏

光成

あ。や。軸。松。枝。お。り。や。り。れ。あ。と

手。里。より。ま。り。の。仙。小。ざ。ら。ら

伊。勢。藤。や。下。津。志。根。を。初。切。脚

仙三子氏

光成

神。保。乃。月。い。は。ら。猶。廻。乃。里。を。ま。れ

重賢

に。や。飾。と。風。雅。を。赤。一。郭。云

同遊氏

鶴志

め。げ。う。り。扇。小。涼。集。の。友。ち。と。り

同赤坂氏

露舟

余の筆乃  
あいつよ

花を不知風とてひるぬ鉄切柳 同小室氏 宗博

舌乃花代野菜乃修り那 同瀬谷 光天

大窪の曲篠り鳴るるありり 仙北角田 水邊

笠乃塔や腕ながくも伊勢乃月 同所 水仙

柳園一と門きとる月くえん 同所 水練

花風借りけきまきり橋の夜 同 水吞

猿煙半指せかきほくま 同 水泡

雲を春ぐるるおめさす吐送 同 禪伯

いほきも花来乃る照一軸く かくて五月十一

目あけと豆海ほい小通 舟楫の起津と鳥海山

乃腰と廻る曲し功者乃異地 まじりて雲深く程廣

乃内きく福を初 新満の桐

湖水代船登と向小島海山 くわは海山

の物取とくもくも 寺は信託付物を

西のざくく 毛と髪ぬきた羽との

毛と髪ぬきた羽との 波乃指実れおや樽が

波乃指実れおや樽が た。辨福のなきふ

た。辨福のなきふ 遺紙材代る福浦と出大内

遺紙材代る福浦と出大内 墓鐘と存したふ七不思

墓鐘と存したふ七不思 乃瓶るも白拂は打符

乃瓶るも白拂は打符 池の小

池の小 一捧し

一捧し 一捧し

かこて神浦乃大漆。酒田亦ほく五方流能念。連流廿余人大雲。

漆女や堂代化粧神乃う

弘乃為りまことうと草 酒田宗匠伊藤氏 玄順

酒田女と下戸子祝いほぞとあね 同

世代少勢とさうりまに嵐ぬき

け不連集乃様抄一軸あまうこ形見うが略と。同十九日

酒田城出まじ上川の柳塘陰とろり。清川はほくけ九南

羽月。湯二こあり。予の脚の尻後。季旬乃障きやや

志夏し終りはつと。けなまを遠移してまう。記はる

ぬもかおまこて湯殿一とと略も一ぬ

○湯殿山記 羽列戀山の内院右目方梁檜現乃園根を

為まご由所かこころる野大師神通渡天乃おほん時。お

墓山よふり終あまご。かごけあも三世は母乃文殊

菩薩則チ不筆飛龍の首小現形一終ひ魏然とて曰

日域東北よわると。種子三摩耶形乃靈山全體不退の結

坐ありや若終ひ一と承列。淨瑠璃の目。少陰よか利。天

鏡乃驗教き水面に應とる物されやせて。尋さうりたまふ

よけ家川乃末神浦風小滞と。刹塵海滴乃梵文波上よ

光の赫とやあまたまふ。其水上と暮乃かり。今此は連寺

にう。百日百在乃業梵清摩を修。ひ上まう。さ終む。

あやまう。ば。身阿字のま靈よ對面まうて。まお教れ乃

清多形る今よ嶺然とてあり。先ハ麓羽黒山佛同常合

形と霞よかう。坊中。修験乃門くま。捐とまう。はまり。

是より十二里乃修後小形んとうり。る面梯。胡桃坂。岩鼻

の加持水。何事も奇異乃其物也。なほ石曼真如乃梵字  
川。空劫を始乃指處と出して。法と不生の心を神とせ。  
意はゆき乃を獲す。すまの神心を察乃言ゆ。三念の  
賤く焼く。ぬく。ぬく。八里とあびて。来運と符録。陸が。神船  
うり。誓乃池。南乃岸を補。施。海。心。空。ふ。ま。り。つ。濁。目  
月光の處と。と。と。希。ま。り。夏。水。を。身。乃。雪。指。打。り。も  
連。行。行。乃。雪。指。打。り。信。小。方。便。乃。他。力。乃。や。膝。曲。毛。も。捷  
陸。動。ふ。ひ。と。く。夢。寐。も。天。如。り。り。か。ゆ。く。ね。む。え。ず。願。上  
月。山。指。現。乃。る。家。不。付。り。し。後。灌。籃。を。脱。り。頭。埋。れ。ん。  
ゆ。を。誠。路。依。波。の。沖。南。も。鳥。海。真。女。海。金。心。嘆。こ。う。く。も。  
只。魚。山。乃。ご。く。也。そ。乃。禪。や。毛。乃。襖。と。ぬ。ぐ。る。箕。尾。乃  
天。譯。より。く。く。た。た。ば。ぬ。小。室。る。ん。地。と。小。室。乃。通。也。よ

根甲燒。雪。波。湘。ふ。り。あ。ぞ。な。と。と。定。巨。講。乃。小。屋。は。な  
華。と。ま。る。念。仏。乃。を。も。あ。る。ま。と。ま。さ。く。降。羅。尼。の。音。  
古。室。い。と。と。す。ら。う。ち。り。初。よ。い。金。界。乃。目。漏。湯。教。乃。燈。籠  
よ。光。と。ま。り。へ。て。文。交。張。乃。を。と。ま。り。夕。乃。胎。藏。乃。月  
輪。湯。沃。の。湯。池。は。彩。を。和。ま。て。元。形。乃。乃。言。あり。ま。く。そ  
清。は。下。乃。る。す。ぐ。り。夏。乃。籠。ひ。り。心。の。も。と。す。く。五  
蘊。の。障。乃。頭。乃。念。乃。車。も。も。て。う。り。ぬ。く。追。分。此。出。行。乃  
あ。つ。と。と。根。憾。悔。の。願。若。離。と。か。と。清。淨。自。在。乃。あ。つ。た。め  
是。より。秘。室。門。淨。去。は。入。南。遍。照。金。剛。大。師 宿。珍。乃。内。院。乃  
瑞。栴。乃。金。丹。無。言。乃。寒。池。自。地。乃。記。一。何。ぬ。と。乃。信。の。祥  
類。と。進。乃。乃。あ。お。そ。れ。あ。し。と。略。毫。を。信。こ。れ。り。謹。心  
敬。棒。乃。を。冷。く。と。鉄。滝。乃。水。裏。脚。乃。あ。つ。る。と。十。修。所。と

南遍照金剛大師  
飯命當山守護神  
宿珍乃内院乃

かりとや 神前おぬくも 心身二種乃 後拍掌神とく。  
 吾相中見乃 君鏡よじりふとくありありてあつとんれい。  
 秀乃 木見盧遮那を自然涌出乃 蓮花湯小座。湛然とて  
 て向くもく。賢臣乃 信きい。あま後暗の物に圓小。八百八  
 千乃 形相魏然とてて唐とく。却て嵩を築松の色心  
 不二の曼荼羅とく。風声水音を聞て悟道乃 真言を唱  
 〇 何まのありとく。やとるま。海に乃 眞のま。海に  
 〇 奥心の神乃 淨室とく。心も只松の月只水乃 香  
 湯殿とや。石滅乃 荒。夏。秋。  
 信は 不垢不穢乃 金剛不産。心月輪の 観望明暗とく。頓  
 悟小涅槃とく。嗽くも。よと。跌倒くも。感涙私雨とく。  
 ひる盧か。に家。歳。淨とく。法。滅。八。百。年。乃。の。の。の。の。

年小か。のり。月。ふ。ま。一。掃。素。乃。夜。音。る。雪。ら。も。と。剛。の  
 る。の。ぞ。ね。ぞ。濁。世。乃。僻。凡。一。時。片。時。の。ま。じ。も。と。吾。相。吾。我  
 の。心。佛。と。ん。く。ま。の。口。ま。と。運。ぶ。信。懐。か。り。一。ま。じ。び。ん。と。く  
 しく。ま。た。二。世。の。影。を。海。に。ま。た。と。い。く。ゆ。ま。か。く。て。地。獄。山  
 よ。と。か。つ。り。石。嶽。三。重。と。り。り。清。水。村。よ。出。と。う。ま。く。ま。く。ま。れ  
 り。け。葉。簪。乃。神。は。照。流。一。毛。も。偽。ま。漢。人。必。と。懸。心  
 嘲。鼻。一。冷。ま。ま。よ。あ。ま。け。い。れ。は。ゆ。の。自。身。穢。見。せ。と。く。は。  
 文。と。も。も。然。も。知。く。か。く。た。り。り。ん。と。も。ふ。も。君。ん。り。お  
 よ。信。く。へ。と。な。り。あ。と。う。妙。ぢ。中。乃。妙。ま。ね。  
 か。く。て。あ。月。廿。日。庄。内。清。城。下。敷。器。地。主。氏。林。氏。乃。ま。

世に夢の 櫻さくふり柳と那 比入  
 於しれり 幽誓やわく夏乃月 同相氏 湖山



捨<sup>ハネ</sup>鉢<sup>ハネ</sup>。腸<sup>チウ</sup>具<sup>ク</sup>少<sup>シ</sup>を滅<sup>メツ</sup>と。粗<sup>コ</sup>毛<sup>モウ</sup>綿<sup>メン</sup>乃<sup>ハ</sup>ごとく也。け穴<sup>ケツ</sup>故<sup>コ</sup>は移<sup>シ</sup>て難<sup>ナシ</sup>  
 處<sup>トコロ</sup>もあつべしと。殊<sup>メダ</sup>持<sup>ヂ</sup>の旨<sup>シマ</sup>なり。奇妙<sup>キミヤウ</sup>といふとありしを。  
 さねて古<sup>コ</sup>池<sup>チ</sup>前<sup>ゼン</sup>表<sup>ヘ</sup>とてくふ。まきくつ麻<sup>マ</sup>河<sup>カ</sup>迦<sup>カ</sup>葉<sup>エフ</sup>翁<sup>ウ</sup>是<sup>シ</sup>乃<sup>ハ</sup>常<sup>ジョウ</sup>  
 不<sup>フ</sup>定<sup>テイ</sup>をくつ高<sup>コウ</sup>大<sup>ダイ</sup>師<sup>シ</sup>摩<sup>マ</sup>尼<sup>ニ</sup>峯<sup>ホウ</sup>乃<sup>ハ</sup>石<sup>シキ</sup>高<sup>コウ</sup>小<sup>コウ</sup>引<sup>イン</sup>菴<sup>アン</sup>のわん<sup>ワン</sup>河<sup>カ</sup>も。  
 居<sup>キ</sup>宿<sup>シュク</sup>を野<sup>ノ</sup>乃<sup>ハ</sup>樹<sup>ジュ</sup>もふとて。神<sup>カン</sup>と塊<sup>クワイ</sup>卒<sup>ソツ</sup>のやうふ遊<sup>ユウ</sup>をもとまて。  
 其<sup>ミ</sup>を也<sup>ヤ</sup>世<sup>セ</sup>耳<sup>ニ</sup>にあり。是<sup>シ</sup>の現<sup>ゲン</sup>の眼<sup>ガン</sup>もあつ。かふく理<sup>リ</sup>智<sup>チ</sup>法<sup>フフ</sup>身<sup>シン</sup>の  
 依<sup>ヰ</sup>正<sup>テイ</sup>の志<sup>シ</sup>わづと前後<sup>ゼンゴ</sup>とをま<sup>マ</sup>力<sup>リキ</sup>もつとつとつとも。元<sup>ゲン</sup>來<sup>ライ</sup>大<sup>ダイ</sup>自  
 金<sup>キン</sup>蔭<sup>イン</sup>乃<sup>ハ</sup>因<sup>イン</sup>果<sup>カ</sup>不<sup>フ</sup>小<sup>コウ</sup>師<sup>シ</sup>資<sup>シ</sup>一如<sup>ニ</sup>乃<sup>ハ</sup>德<sup>トク</sup>願<sup>ガン</sup>の影<sup>カゲ</sup>也。亦<sup>マタ</sup>便<sup>ベン</sup>即<sup>ソク</sup>其<sup>ミ</sup>果<sup>カ</sup>の  
 通<sup>ツウ</sup>受<sup>ウ</sup>あふもあつ。すなう。既<sup>シ</sup>は佛<sup>フツ</sup>流<sup>リウ</sup>因<sup>イン</sup>塔<sup>タク</sup>相<sup>ソウ</sup>承<sup>ショウ</sup>乃<sup>ハ</sup>具<sup>ク</sup>文<sup>モン</sup>太<sup>タイ</sup>自  
 經<sup>ニ</sup>曰<sup>ク</sup>。得<sup>トク</sup>證<sup>テイ</sup>佛<sup>フツ</sup>身<sup>シン</sup>無<sup>ム</sup>有<sup>ユ</sup>生<sup>ショウ</sup>死<sup>シ</sup>。不<sup>フ</sup>轉<sup>テン</sup>肉<sup>ニク</sup>身<sup>シン</sup>得<sup>トク</sup>無<sup>ム</sup>漏<sup>ロウ</sup>果<sup>カ</sup>也。い  
 る。つづ不動<sup>フドウ</sup>凡<sup>ニ</sup>體<sup>テイ</sup>證<sup>テイ</sup>得<sup>トク</sup>佛<sup>フツ</sup>意<sup>イ</sup>とを。是<sup>シ</sup>真<sup>シン</sup>言<sup>ゴン</sup>也。乃<sup>ハ</sup>感<sup>カン</sup>言<sup>ゴン</sup>。耶  
 才<sup>ソウ</sup>成<sup>テイ</sup>佛<sup>フツ</sup>乃<sup>ハ</sup>冥<sup>メイ</sup>也。於<sup>オ</sup>其<sup>ミ</sup>終<sup>シユウ</sup>後<sup>ゴ</sup>也。この法<sup>ホフ</sup>の形<sup>ケイ</sup>もあつを

か乃<sup>ハ</sup>壓<sup>オウ</sup>言<sup>ゴン</sup>とて。斷<sup>タン</sup>真<sup>シン</sup>乃<sup>ハ</sup>放<sup>フウ</sup>後<sup>ゴ</sup>。尚<sup>シヤウ</sup>見<sup>ケン</sup>乃<sup>ハ</sup>生<sup>ショウ</sup>とて。くもふとて。くも  
 と。機<sup>キ</sup>梳<sup>ソ</sup>乃<sup>ハ</sup>隣<sup>リン</sup>。片<sup>ヘ</sup>鄙<sup>ヒ</sup>もあつ。もつとつとつとつ。口<sup>コ</sup>指<sup>シ</sup>くわつて。  
 と佛<sup>フツ</sup>在<sup>ゾウ</sup>亦<sup>マタ</sup>乃<sup>ハ</sup>心<sup>シン</sup>ありとて。山海<sup>サンカイ</sup>の眺<sup>テウ</sup>望<sup>ボウ</sup>也。くもふとて。くもふとて。  
 乃<sup>ハ</sup>くおほ也。法<sup>ホフ</sup>才<sup>ソウ</sup>常<sup>ジョウ</sup>位<sup>イ</sup>乃<sup>ハ</sup>因<sup>イン</sup>月<sup>ゲツ</sup>乃<sup>ハ</sup>光<sup>クワウ</sup>也。海<sup>カイ</sup>もくもふとて。くもふとて。  
 して。前<sup>ゼン</sup>世<sup>セ</sup>の持<sup>ヂ</sup>水<sup>スイ</sup>乃<sup>ハ</sup>満<sup>マン</sup>年<sup>ネン</sup>と。雲<sup>ウン</sup>迹<sup>キツ</sup>加<sup>カ</sup>お乃<sup>ハ</sup>郵<sup>ユウ</sup>は花<sup>ハ</sup>。西<sup>サイ</sup>悟<sup>ブ</sup>寄  
 希<sup>キ</sup>乃<sup>ハ</sup>常<sup>ジョウ</sup>不<sup>フ</sup>後<sup>ゴ</sup>也。玉<sup>ジュク</sup>海<sup>カイ</sup>の指<sup>シ</sup>寄<sup>キ</sup>鼻<sup>ビ</sup>也。道<sup>ダウ</sup>也。わくもくもふとて。くも  
 なるもつとて。今<sup>イマ</sup>もつとて。その體<sup>テイ</sup>乃<sup>ハ</sup>郭<sup>クワク</sup>也。来<sup>ライ</sup>世<sup>セ</sup>の眼<sup>ガン</sup>前<sup>ゼン</sup>の  
 八百<sup>ハチヒャク</sup>歳<sup>サイ</sup>もつとて。腸<sup>チウ</sup>おれもつとて。くもふとて。くも  
 也。乃<sup>ハ</sup>佛<sup>フツ</sup>乃<sup>ハ</sup>信<sup>シン</sup>なり。お海<sup>カイ</sup>十八<sup>ジッパチ</sup>里<sup>リ</sup>の依<sup>イ</sup>傍<sup>ボウ</sup>也。くもふとて。くも  
 事<sup>ジ</sup>なるもつとて。信<sup>シン</sup>もつとて。くもふとて。くも。拍<sup>パツ</sup>濟<sup>ジ</sup>もつとて。くも  
 よけ所<sup>ヨケトコロ</sup>も。佛<sup>フツ</sup>乃<sup>ハ</sup>ありとて。くもふとて。くも。

乃<sup>ハ</sup>佛<sup>フツ</sup>乃<sup>ハ</sup>信<sup>シン</sup>なり。

やがて長井氏似也と云はれりて又長井と云ふは六月の  
乃ち乃ちと云ふは六月の一日金首尾に吾様投れり侍

小を長井と云はれりたされ奥のへりては

越後相崎長井氏

似水

○又後投り 朧望らざりぬとの松を乃の藻垣家

同

黄乃みら由と云ふは信一が侍

重榮

彦宗蓋や又月夜と云ふは侍

定又

○又後投り 朧望らざりぬとの松を乃の藻垣家

思の方又扇と丸袋句に侍と云ふは侍の継指なりあつ道小

者乃取指と云ふは侍と云ふは侍と云ふは侍

○又後投り 朧望らざりぬとの松を乃の藻垣家

として名を記し報復の護國山をふされ大仙宮の御堂に帝御



建之目城第一乃五智を在像又尺有余致光蓮座小膝

と云ふは侍と云ふは侍と云ふは侍と云ふは侍

芥子乃鼻刀と云ふは信よ金容儀と云ふは形相又智徳後

の五相好れ揚格を名古のゆ糸又影を漫して天上天女の

一月と羅し又性中存乃丸白毫を言れり小光を後

て三千太子小下後と極かと云ふは侍と云ふは侍

朧望の記もかきりてと云ふは侍と云ふは侍

標は落しと云ふは九輪乃控かかると云ふは侍

松乃山行れ侍雪のさるに侍と云ふは侍

よりのねえ東大所と云ふは秀才樂智の佛士樂集して侍

月乃命の終よ長途乃介抱せと云ふは侍

好ましく山ありと云ふは侍と云ふは侍



池ぞおつり。業がほりみそとこ

ほびほびとつらんぞぞと夜

兼法高田巻岡

睡雲子

○又抄捲り ほびほびとつらんぞと羽風ふほとこ

同

○初祖翰竜大師の尾よりつらつら。龍のまがな遊ぶ。墨

竜軒欽昌玉をそへ天精俊逸博辨の雲人といふ。宿るふ

小付の和風すすこしく。麓ふその峰をうけし。世世

乃泉。三笠松のかさかんの涼いちぞ作る哉

ききより涼風や投げく三笠の松

高田墨龍軒

欽昌

墨龍子も極つて倒の枝角とて。一章と其初は

○寓言の水とまきく。抄にも果やあらねらん。其机月と鏡流

雲と桃ては。松の影乃の耽留集とて。三平の空也。不慮

表紙へ投入。乾坤の笛とつて。崩おかけ。少陸の文閣と打板

久の黒布登れ弁舌は流のひと只一人待飲の雲とて。るわ

世。平小記伏野中まふ。はるびの貝と吹雪。凡が乃耳おす

く。あはれ。なる。あも乃蜀魂 歡昌

笑とこまきくもまきく。五月雨

細川氏の。花逸人。余ふる小庵ふさし。を座ふ。抄とて。即来と

貫き。尾乃。影と風流。うる。泉うら

細川春庵

梅の摺枝。まかき。め乃涼風 棟雪

四角。え乃中。何乃せん。亭も。十一。瓶さし。は。は

し。り。熟流の。木草。一色。一。る。は。席。又。七十。終。白。と

立。花。代。記。と。か。が。長編。故。と。略。と

岩倉

○者。し。切。折

抄。換。乃。白。巻。く。乃。舌。眼。よ。う。は。夏。夜。ほ。ま

北柳

似柳

直江小池

鷄枝

素ざくらふま枝咲けり行柳風  
耳に伝ひてやうよほまじろつ杜若香  
直江小池  
鷄枝

直江照蓮寺

扇橋

○屏風の  
豊徳と  
あうがうふ鏡り中付さほくまに  
冷たりたり月乃くむく夜をぬ  
わくや烟扇さをくりて夕すむ

○直江の宗三法師とて決心堅固乃念佛者あり  
千自乃長行は遠くしてとらん林泉幽菴ふ六方なる  
亦他は雨をにまらせ一紙をかきこ

○徳生浄土乃宗三系も。法後乃一心を修行とて出離  
○徳生乃要とてはふとる事ハ易行道にて心  
決まると其のくさるやあつむ。あつ他乃二字を  
目付程とてふあり。む自他不二の行法あるふ他力を  
元とまじりにほいさき楽あり。他乃ハ是人我を拵根源  
かり。さむとあまの時を二心不亂乃稱名法界浄土の  
法界とてあり。自然悟乃の便利よかき。信心乃氣  
力ほまじろ

あつせまじろふあま月をほくま

家小親を信任侶専性法事。為仁柔和乃老衲あり  
行は親几乃餘力あり。まじろとて。念後の氣清とて  
まじろ。四半の陰は履を入。手に記をのぞむ。又七款ありよ





後と約海一海も夏享寅同痛乃末より余とくまであり  
時又再會乃向あり。又やとてはるまじり記

去年の校打跡生まの乃とてとて  
墨龍

めらるるやとて思奉の修り  
棟雪

心考あわれむ。やう前此ほく  
玄仙

とあげくも。と移ぢむく墨海杜宇  
睡櫻

更衣乃裏の玉白やと僧靴  
耳洗

種子密法家の古きし子紀  
為承

指考ふりりめ。びれ控ほく  
更也

二ありり。又。笠。控。や。杜。綿  
鷓枝

あまの八月も圓成立。又智再新。るるる。上滝宮定戸。  
胎月瀆瀆演進。追。追。播。浦。四。階。波。大。炭。独。生。控。現。思。外。大。和。川

と。魚川。さ。梅。風。亭。入。風。情。よ。と。と。淡。野。涼。風  
亭をあまの。壇。壇。乃。と。と。と。忍。分。ら。れ

涼。あ。く。や。壇。尻。乃。後。一。蟹。あ。後。も

壇。あ。く。や。壇。尻。乃。後。一。蟹。あ。後。も

姫川。神。一。り。神。山。白。雨。も。り  
越後糸魚川 梅風

宮。を。涼。一。と。一。あり。洋。去

越。南。山。親。ら。と。弱。色。強。あ。あ。後。乃。心。後。と。あ。ふ。忍。と。越。後

報。中。乃。境。川。お。急。く。急。あ。く。乃。急。白。せ。く。略。日。且。才。百。越。中。路。入

梯。眺。望。黒。部。四。十。八。ヶ。瀬。の。川。上。合。わ。乃。坂。摺。も。同。本。才。一。の

奇。様。さ。ゆ。ら。く。虹。掃。乃。天。と。と。奪。得。と。嶺。屹。と。盤。屏。あ。あ。乃。巖

櫻。よ。又。控。乃。尊。乃。る。本。甲。と。構。入。片。岸。不。隠。く。坂。道。乃。行。合。の

間。八。も。は。と。撰。察。大。柳。と。投。海。一。楓。樓。柱。梁。孔。阜。く。鋼。鉄

懸るく檜長四十間木柵欄柵と組多り減るる若葉乃匠言  
借る終る。指りり下く。凡三十尋とある。後潮谷に  
ほる太鯨とよき。魚竜火鱗とあつた。似たり。若く寒毛  
卓る。色名もたきし。乃百丈流。地獄く。乃温泉。宛も  
ほく。洞占乃。喉よ。高。吐く。た。運流。悠。向。上。も。沖。津。も。  
ちよ。の。わ。り。身。も。乃。白。布。と。へ。う。う。う。世。の。室。十八。水  
と。り。や。百。水。も。あ。る。後。々。の。於。雲。よ。あ。り。る。飛。行。鳥。也。も  
禪。と。わ。る。魯。盤。も。松。と。て。車。力。が。絞。車。も。ち。づ。り。は。べ。い。後  
臨。不。道。せ。う。一。吸。乃。様。圍。と。月。宮。の。か。つ。も。て。來。ぬ。と。と。と  
拈。痛。あ。く。く。し。り。の。落。津。指。痛。乃。玉。子。の。か。い。は。き。き。り

○指りりり。るる川。まねる。布。片。貝。川。と。と。地。中。泉。津。村。岩。中。源。水。よ。入。る。先。さ。さ。り。

○立山本跡 越中。新川。郡。蘆倉。庄。立山。文武天皇。大寶元年。  
俗性。佐伯。氏。慈。真。上人。因。基。日本。第一。大。梁。正。一位。立山。  
控。境。本。地。國。常。立。号。相。殿。二。柱。号。皇。孫。号。思。兼。命。乃。力。准。  
會。也。十。所。皇。子。一。萬。眷。屬。十。万。金。剛。童子。高。貴。山。七。百。余。  
号。金。峯。山。五。百。余。号。禪。頂。迄。九。里。越。中。越。後。信。濃。飛。彈。四。  
箇。國。跨。社。人。廿。五。人。神。主。佐。伯。氏。社。僧。廿。四。房。麓。本。殿。有。  
山。之。名。前。縁。起。五。尋。一。軸。書。置。左。之。記。山。中。道。記。景。眺。也。  
○立山路往 悉。約。履。佛。祖。乃。流。氣。指。杖。よ。り。め。る。筆。  
乃。禿。と。も。せ。り。後。一。づ。ち。心。を。り。や。一。心。の。丹。誠。ハ。竜。回。乃。抱。と。  
ろ。め。三。葉。の。白。雲。を。立。し。乃。雪。の。心。を。も。つ。と。携。帯。の。お。ほ。  
は。つ。る。と。よ。先。達。諸。師。を。侍。ひ。炬。し。と。も。本。宮。の。後。提。ると。  
出。し。り。菅。竹。を。葉。は。茂。り。く。り。登。河。乃。名。路。を。し。ら。か。の。籠。れ。







中をうらりて東畑ふらふ。あふ善きもあふく。まよひ  
知く。いよもとくく。て。本海嶽は嶽。の龍眼木。棘  
来。佛よれ。頭ゆるも。口よは。神佛のはらむを。まよひ。頂上  
 不可。後所。とく。逢。帯。串。く。く。ゆ。久。那。太。理。落。滝  
 津よ。心。濁。海。や。つ。曲。路。乃。論。と。南。宮。乃。倚。短。う。ま。の。底  
 吹。あ。ひ。に。息。も。ほ。あ。へ。い。ま。り。れ。道。反。の。太。神。緒。ひ  
 さ。う。び。も。い。ひ。く。勞。し。て。頂。上。乃。禅。よ。は。く。観。念。と。ま。よ  
 ま。く。百。尺。乃。竿。頭。に。ま。び。給。ち。ん。地。と。摩。訶。大。舎。二。尺。乃  
 も。神。舎。の。神。輪。合。と。と。く。あ。ま。や。舟。吳。光。と。あ。つ。こ  
 かん。れ。ど。観。乃。さ。う。ふ。の。目。乃。は。ち。も。紫。乃。菫。光。花。と。い。て。  
 その。中。に。種。の。奇。妙。あり。ま。の。く。ち。も。ま。と。ば。り。け。ら。り。は。ま。  
酒。こ。ら。ら。れ。い。ま。も。い。ま。も。い。ま。の。自。あ。わ。い。ん。の。酒。心。ぬ。ら

びく。が。雲。霧。さ。の。は。ら。あ。ふ。く。天。誓。を。押。殺。た。ま。よ。め。く  
 空を。操。持。乃。や。う。た。り。形。乃。下。に。一。富。士。三。白。山。四。鳥。海。も。高  
 じ。り。え。ち。り。早。坂。あ。か。し。目。乃。合。乃。中。に。燈。籠。よ。は。く。餉。三  
 た。め。地。獄。唯。れ。い。し。ん。地。乃。地。乃。と。を。た。よ。ん。て。ほ。う。の。物。れ  
 ね。さ。し。び。み。ま。く。復。眉。と。悠。々。北。斗。を。柱。乃。あ。り。と。れ。と。ま。ん  
兼。御。嶽。と。ま。り。漸。巖。乃。力。嶽。乃。是。疾。鬼。乃。も。投。く。も。嶽。嶽。鋒  
 山。乃。無。心。乃。も。雲。乃。の。も。天。乃。う。づ。く。温。湯。乃。眺。乃。の。向  
 連。乃。雷。耳。乃。枝。乃。啞。乃。ぐ。く。業。臂。と。あ。ま。と。懸。懸。野。乃。戰  
勇。奴。も。尻。乃。と。く。ま。ぬ。べ。一。帯。乃。修。乃。志。乃。を。傷。乃。馬。乃。と  
 乃。湯。乃。と。く。く。右。乃。攪。乃。目。乃。も。ろ。羅。刹。乃。ひ。く。信。乃。邪  
 正。不。二。乃。乃。乃。彈。頂。乃。い。ま。る。れ。乃。乃。剗。乃。乃。澤。嶽。乃。有。漏  
 岩。密。の。煙。色。と。あ。ま。陰。陽。乃。兆。乃。心。の。生。滅。乃。孔。乃。乃。破



越中滑川桐澤 蛙子

三回

このころかろなりき乃露

同富山中畏 隨有

山蓮照寺

種子如海乃信をぬきてゆく月

云云子

舟の達人有海と云

備前別宮大なるは瀧宮。瑞流寺乃奇蹟を稱と。高世繁買の地

醸の良乃一善哉本質う那

越中高世大坪氏

経のり拾ふおま乃

宗心

今宵二里

行くく種生乃八情堂よりわぬ富内盤とくく左殿赫

赫より。よてすまよび義仲の経書。是明法師が支那を

祥せんや。社家る貞守おかしかくとつだ。やがそみどり袂よ

あゝあ。寶殿より金泥乃銘通をたけり。流雲乃結と脱。江

後乃備より珠粒一巻とちあま。信の楯上玉海。毫端飛竜目

もあやふらち海。文法もあゝ物法は同。植生け字けわさ

せり。再祥しく佐利伽羅。上下二重。不動商。柳の。茶店い

海。らるるのひとをる。古故くとんく八目ふはく

○金澤繁榮 排傍木乃信。統と投と膝成つこと。祥地

瑞境と登るに。系相寛豊に。相瓦白巻乃殿揚。舞く。五

弟乃癩竈。ことさうふ。當大守君。天竺聰高よい。そ

り。古の。希賢乃煙浪。海は漂さま。ま。海風の改道

を。富法。直忠士。麻席とさ。い。必い。文學。高。傑乃賓客

陌。人。孤。独。貧。困。ま。る。に。北。田。舎。を。建。鯨。寡。病。衰。れ。ま。の。り。

松葉廬に之仁徳をせむ。上下比和乃安泰。燕樂乃加賀。ゆ  
もけつ小をやり出。遊宴乃常恒。早秋いまきく。廢る吟人さう  
にや。控る地境。祥福あり。後を白山天開。わたちて。後之  
乃楯也。堅固したまひ。あまの勅幣山。龍口よむ。ひ。黄金の  
後。羅やも。儀まう。ざ。い。げ。あ。と。ん。く。も。和氣相まりと。独  
こ。あ。さ。て。統と。伴ひ。南町井。道氏一。五。丈。亭。小。は。く。え。白。山  
後。頂乃。我。な。う。む。げ。や。ち。目。も。る。ぬ。片。時。も。と。や。う。し

○白山詣 相九日。重次と。立ち。社。神。指。乃。拜。して。十。餘。里。を  
過。籠。乃。函。と。あ。え。兼。尾。副。村。神。師。何。が。一。先。逢。ま。く。同。十。日  
同行。十。餘。人。登。山。を。○。標。當。白。山。用。基。養。老。元。年。大。澄。和  
尚。踏。分。終。小。く。ぬ。人。頂。上。高。禪。妙。理。指。現。の。南。理。媛。會。也。相。殿  
末。社。無。量。なり。跡。山。ま。て。九。里。八。町。雪。峯。乃。所。回。往。別。山。地。獄

等。さ。山。よ。り。ま。や。う。也。本。縁。記。秘。く。世。人。知。處。ま。が。暗。予。も  
狂。ま。り。て。數。百。乃。後。乃。成。ま。り。○。眺。を。長。編。せ。う。が。金。屋。に。り  
こ。一。ま。り。お。り。回。天。を。ね。く。ふ。後。所。ま。さ。巡。れ。を。山。の。賀。飛  
券。越。回。く。國。を。跨。ぶ。信。は。高。く。と。雪。より。上。乃。説。は。傷。銅。鉄  
乃。雪。も。又。蹄。乃。跡。形。彫。と。や。取。ま。り。程。不。思。義。と。い。ふ。あ。ま  
ま。り。り。海。と。下。い。の。る。ま。が。り。本。葉。も。秋。と。り。白。く。ま。り。れ。山  
あ。〜。〜。乃。く。た。去。年。此。雪。の。繼。り。今。年。乃。雪。れ。續。と。わ。う。の  
ま。れ。を。ま。ま。の。緩。編。子。乃。帽。子。と。ぶ。り。信。の。の。社。よ。の。高。松。の。霞。猫  
と。ま。り。り。裾。の。〜。〜。枯。の。秋。葉。の。環。萩。落。瀧。乃。芽。原。生。線。乃  
烏。ス。キ。リ。乃。虹。乃。禱。と。ま。り。乃。む。い。ん。の。衣。領。樹。乃。禱。と。ま。り。乃。禱。を。や  
ま。り。れ。ぬ。泪。の。時。後。汗。と。い。ふ。う。ら。む。ら。け。と。ま。り。乃。く。ら。れ。乃

加賀富士や飛龍とろろね 白梅

加賀富士や飛龍とろろね 白梅

白くや境され紅糸雪乃 鰭

○金沢より 加賀諸やま風肌く花ひきく

加賀金沢井筒氏 一正

○又抄後 春流れくもあも 野三金沢より

同

○雷新の宗匠 友琴の名を 春がなや松乃 瀧く子里の傳

金澤 友琴

○五句 春玉花づこ子風系 一耳より

○名をけりく 春もつと春より 金乃 一系風

泉氏 和徳

粒とくくいもれく秋よあり

離襟とくくぬもく河橋西の方寺住僧小籠とくく。又二目林

顧糸や鏡本の梢月ヶ 吟

○小松の宮ふ 小松の宮かまきくまどかへもまよ

加賀小松武部氏 元武

○信とあふ小松又登せ 中一途よとくもふみらぬく乃月

安宅園の回廊

又多田八幡宮

弁乃くくねがさくく遊とま安宅月

興善寺 月

火威の鏡菊カラ

古納とくひもだきとくくくくくくく

興善寺 笋雪

ク弁ノ甲これ火威

追くもくいと客信く月ひく

駒井 正堯

○たいつし銀白

人く似くく先この月さ二二目

武部 正義

くく一章つ

春嶺乃 頸くくくくくくく

武部 正義

彩かん

絵圖又かくぬ色のまひがくくく

かこの目金澤とく。越ある内は津津江宿後。津城下福井

美所をく軒地境めくくくくくく。小江橋。小江の鯉江府中

ははく。湯尾跡とくく。ゆきよかくぬすくくく。乃あくくく

○古くくく。乃くく。校舎乃くく。昔の夜を

○美秋よりくく。のくく。くく。乃くく。乃くく

今を。本自跡。深い寺有戰場。打録。敦賀の津くく



知まふとく。あまのうまの原より求めらるゝとて。あまの  
 後あへく。あまのうまの原より求めらるゝとて。あまの  
 を丸く物とて。自ら捲いて。予の袂と縁より下へ。突かむらぬ  
 時ふる。ばきり。又。あまのうまの原より求めらるゝとて。あまの  
 金を。い。折か。あまのうまの原より求めらるゝとて。あまの  
 穴を。あまのうまの原より求めらるゝとて。あまの  
 免。如。法。乃。出。あまのうまの原より求めらるゝとて。あまの  
 乃。あまのうまの原より求めらるゝとて。あまの  
 て。あまのうまの原より求めらるゝとて。あまの  
 物。成。と。あまのうまの原より求めらるゝとて。あまの  
 一。あまのうまの原より求めらるゝとて。あまの  
 ち。あまのうまの原より求めらるゝとて。あまの

擧げらるる。あまのうまの原より求めらるゝとて。あまの  
 あまのうまの原より求めらるゝとて。あまの  
 さ。あまのうまの原より求めらるゝとて。あまの  
 二。あまのうまの原より求めらるゝとて。あまの  
 三。あまのうまの原より求めらるゝとて。あまの  
 乃。あまのうまの原より求めらるゝとて。あまの  
 男。あまのうまの原より求めらるゝとて。あまの  
 ほ。あまのうまの原より求めらるゝとて。あまの  
 う。あまのうまの原より求めらるゝとて。あまの  
 あ。あまのうまの原より求めらるゝとて。あまの  
 侍。あまのうまの原より求めらるゝとて。あまの  
 他。あまのうまの原より求めらるゝとて。あまの

佛の御心也。くさるゑ癒乃からず。平の人とて。うさうさめは  
 門なり。女童の向く怒つて。おぼらぐりとも。三毒の一命  
 八億四千の罪とす。余一彈の詐つてふなり。おぼらぐ。おぼらぐ  
 鬼心源更に和く。只み鏡もく。枘端を穿。忽ちに善善自の成  
 死。いづらば。りの。意。悲。う。おぼらぐ。又和さる。かのるを  
 の穴へ。いれ。さ。つ。つ。り。も。よ。も。人。我。と。お。さん。お。乃。の。あ。じ  
 還。て。執。念。の。や。さ。ら。も。ご。乃。目。い。く。ご。乃。罪。作。ら。ん。と。可。あ。じ  
 られ。ご。かく。謀。ら。む。ご。ご。し。唐。を。乃。あ。る。傍。を。珠。と。奉。る。ご。の  
 命。小。さ。う。か。つ。つ。む。い。ひ。ご。ご。ご。ご。ご。ご。ご。の。罪。念。と  
 許。じ。ご。ご。お。乃。泣。き。ご。ご。なり。又。不。經。善。乃。行。御。す。ご。罵。詈  
 誹。謗。乃。人。ご。も。ご。ご。め。ご。打。擲。疎。譎。乃。者。ご。ご。邪。ご。ご。ご。ご。  
 給。ご。  
 又。鳴。と。感。げ。ぶ。り。り。柔。和。は。地

を。給。り。ひ。き。目。中。と。獨。巡。道。い。る。り。か。ご。  
 ぬ。れ。や。ご。ご。ご。ご。高。津。行。ご。  
 ご。の。一。ご。  
 兼。乃。ま。あ。け。ひ。ご。  
 け。の。事。な。ご。  
 ん。ご。  
 上。る。給。り。し。ご。  
 三。百。錢。乃。利。あり。ご。  
 か。ご。  
 陰。謀。二。百。錢。乃。徳。現。當。の。利。より。又。幾。ご。  
 二。百。錢。乃。徳。現。當。の。利。より。又。幾。ご。

一



三十一日。むさし。乃。長吉。短冊。乃。部。射。よ。と。と。被。丁。に。た。り。府。甲。時。乃。と。し。と。二。里。送。り。し。か。し。り。の。事。と。み。と。筆。費。と。と。み。し。り。秘。書。の。自。負。と。た。り。の。大。方。伸。乃。程。あ。り。は。は。り。な。ん。

忍。の。一。露。世。界。と。家。乃。あ。ら。ん。う。ね。  
佐。官。傳。乃。入。に。と。ち。の。と。諸。灯。の。本。信。より。文。殊。圖。し。れ。か。ん。式。部。ウ。ス。塔。と。ん。と。切。逢。三。十。二。間。乃。燈。縁。と。艇。よ。り。松。あ。ら。あ。り。仲。造。水。を。む。と。び。成。合。入。親。言。小。札。打。極。中。に。下。三。層。乃。は。二。幅。十。二。間。長。三。十。四。丁。の。崎。は。自。然。乃。古。松。と。並。揃。と。は。あ。ひ。し。真。亦。よ。躍。ぶ。本。朝。十。二。系。第。四。の。因。え。天。橋。陰。陽。の。合。の。指。乃。形。見。と。諸。乃。乃。地。境。なり。記。を。書。し。海。く。れ。と。お。し。せ。人。知。ら。る。し。と。い。ぬ。

橋。さ。や。あ。ら。う。魚。の。せ。く。月。あ。せ。り。

〇。混。沌。乃。未。分。ぼ。り。え。お。し。れ。と。又。踏。も。と。り。天。乃。橋。さ。備。と。海。浦。崎。吹。舟。是。巨。い。た。と。ん。つ。や。は。大。に。い。と。た。は。は。内。宮。あ。ら。ま。入。天。志。乃。形。見。と。あ。ら。ん。伊。勢。乃。古。後。と。と。ま。り。い。か。し。と。あ。ら。く。神。祇。と。あ。ら。く。け。な。る。岸。何。く。但。馬。と。余。あ。ら。ん。丹。波。路。福。地。の。須。知。園。を。善。提。山。穴。太。さ。お。れ。と。あ。ら。ん。と。あ。ら。ん。乃。津。乃。と。室。小。一。室。と。と。目。を。定。め。お。し。て。め。は。し。り。小。帝。乃。と。下。一。前。天。和。三。年。癸。月。十。四。日。部。室。町。通。福。心。氏。左。柳。亭。の。と。草。鞋。乃。細。脱。長。途。乃。困。と。い。し。ぬ。佐。と。十。五。年。の。前。中。で。い。毎。年。京。大。坂。と。あ。ら。ん。と。も。家。業。と。あ。ら。ん。と。あ。ら。ん。と。あ。ら。ん。と。天。皇。の。上。れ。と。と。あ。ら。ん。と。あ。ら。ん。の。下。乃。川。と。い。し。と。あ。ら。ん。と。今。あ。ら。り。新。い。ゆ。と。と。洛。中。洛。外。と。目。余。巡。れ。と。と。あ。ら。ん。と。あ。ら。ん。と。元。來。乃。乃。所。記。と。

救多あまを、あつて、都の事、二所も記し、侍とて、行脚六  
 七年のうらわしめたりし、復、四季思乱乃自とも、左小記、ね  
 ○帝都繁榮、侍慮、只心より、その、まゝ、なほ、  
 至、あ、さ、げ、方、の、一、後、こ、び、と、一、て、う、こ、は、と、ま、く、た、ま、れ、あ、り、く、  
 け、さ、ら、い、の、實、境、と、同、心、ふ、巡、眺、さ、ら、う、う、つ、と、ま、あ、く、一、く、ね、お、  
 猶、思、あ、ま、と、侍、心、さ、う、新、生、を、と、海、を、た、ら、や、く、く、傷、い、  
 乃、中、和、吾、も、笑、い、れ、も、咲、さ、れ、を、時、成、ら、る、目、か、し、ま、平、安、城、の  
 繁、昌、將、軍、堀、を、靜、と、寝、つ、り、小、智、の、古、松、も、枝、言、あ、い、て、や  
 心、と、よ、ち、て、是、と、あ、り、あ、り、思、ひ、携、ま、り、い、ま、し、ふ、あ、り、今、も、又、上、を  
 貫、つ、と、前、後、一、と、信、さ、れ、を、心、の、知、音、な、う、く、ぬ、い、ま、し、二、世、と、く、ま、  
 宿、と、み、ま、を、第、一、の、女、也、ま、よ、い、何、も、ん、宣、額、乃、聖、魂、救、お、れ、津  
 船、も、天、乃、海、乃、加、さ、く、む、大、上、老、若、い、青、牛、車、に、御、一、て、寛、大

フキウ、比、殿、や、お、ま、の、君、尊、と、飼、て、遊、戯、一、文、宣、王、の、白、麟  
 船、の、卒、と、一、代、酒、澤、の、賀、茂、大、井、の、鮎、と、物、と、道、遠、と、  
 さ、れ、ど、あ、ち、ら、の、大、道、仁、木、乃、天、地、を、福、も、ま、く、他、人、よ、い、あ、ま、  
 窶、や、う、乃、補、柿、と、け、く、あ、ふ、そ、く、ま、れ、を、何、の、た、う、す、と、ま、ら、ま、れ  
 あ、ま、い、や、と、い、い、と、新、生、を、ま、の、あ、ま、く、い、ま、や、理、お、あ、ま、い、た、う、  
 事、を、説、然、と、比、さ、れ、も、大、海、の、界、に、か、と、南、唐、を、よ、摠、と、ひ、く、が  
 こ、も、い、ひ、也、又、唐、思、つ、ま、ら、う、つ、と、ま、む、天、人、あ、ま、ら、う、人  
 又、天、よ、う、つ、と、れ、大、路、と、あ、り、あ、ま、ら、ま、く、い、ま、人、情、の、悲、悲、惻、隱  
 あ、ま、い、は、い、ま、い、人、本、乃、云、慈、を、さ、る、け、ら、あ、あ、ま、く、大、あ、ま、け、格  
 よ、あ、り、そ、の、死、生、一、貫、貧、福、一、致、是、と、天、心、と、い、い、あ、ま、い、つ、ら  
 天、云、心、あ、ま、ら、ま、ら、あ、ま、第、一、の、物、人、も、其、一、大、唐、を、れ、も、こ、れ  
 う、い、ま、い、ま、い、を、人、生、今、自、乃、祥、と、い、か、れ、云、心、の、天、命、小、侍、ひ、  
 天、云、心、あ、ま、ら、ま、ら、あ、ま、第、一、の、物、人、も、其、一、大、唐、を、れ、も、こ、れ



たけふ 後小部を居り ぬるす

予の同國勢別 村和の位 富の氏を柳子 少例を 治療

乃きあめ 三糸東洞 信あつり 中舎 位は 位たまふ 余を 在るの

中ハ物 困り 少あひいふ ぬるや 驚き 三平風

けふ 小使の 言おほ 鮮か 素桂

はま 鄙さく ぬるの ねられ 左柳

よ 寅の 三物 手作の 葦草 富山の 全

つひと 寺町 ぬるぬる ぬるの 風

何ぞ 板敷の ぬるぬる ぬるの 桂

しと ぬるぬる ぬるぬる ぬるぬる 全

か ぬるぬる ぬるぬる ぬるぬる 柳

警警 麦 卷 萱乃の 風

林の 涼

祇園 林 涼の 大 涼の 涼

祇園 涼の 涼の 涼の 涼

二軒 茶屋 涼の 涼の 涼

涼の 涼の 涼の 涼の 涼

夕涼 涼の 涼の 涼の 涼

涼の 涼の 涼の 涼の 涼

丸川 涼の 涼の 涼の 涼

涼の 涼の 涼の 涼の 涼

涼の 涼の 涼の 涼の 涼

涼の 涼の 涼の 涼の 涼

涼の 涼の 涼の 涼の 涼

涼の 涼の 涼の 涼の 涼

○水清良 慶鐸 法橋 慶鐸 儒童 文筆 慶鐸 詞

天乃 聰明 地乃 睿智 自然 物理 太虚

花よといへども 独け 異質 稟事 乃か

あつたこと元來大本不昧の神心は先陰旅客の塵魂をいれ  
かろしす舎の器をのるさしにもあつさるめやも今洛陽  
中津宮又みそふ住ねらさるふ物さる賢童慶欽といふさ  
その腑しとりのどのぼくく天のまじり氣運形もいぢや襪  
襪のうらより返文字をたう。膝のへりもいぢも雅楽り  
かう。時さるうれ世の仁雨東風不肥ふ。学華の陰ゆといふ  
既成既望の移り芸さるう陽國長初秋て小里は搦せら  
原秋麟の脚尾よりつづふなん。さむい木林の落を臨  
して早速籠とらまての墨流いとやわく。かき履白河の水煙  
せんをさつとつとく屏風障子の油と出ぬ梅廟の書代興て  
うやくさく錦口のゆき言を吟まき。彩風翰大もや大比睿  
の不生は尙射福園の庵は舞。あつさる榮洞の彈麻を致て生

翁の鼻成弾あつた五山の常離は賊園をゆせて。詩納の躬を  
被ふ。まろ子昂を代指つて母とくさくさく。幻ろ子瞻の鬪ぬ  
とく口あつたさく。予い若津ぬらさるのぐらもさく。さく  
ぬ澤もくさく。さくさくかたはら圖の雲はハ妙たもせざりし  
い年とつふ十三衆の秋りたる。小大いさるさむ楠のさく  
や。ま。さ。さ。さ。たらちのれ袖芙蓉掌の蓮のさおむをかくと  
よひかまらさむ。は橋おの榻前は膝はさるて紫琳のあひく  
ろく。さ。さ。い。小。麗。の。雲。を。さ。さ。い。く。襪。張。ろ。つ。ま。ふ。ら。つ。さ。り。  
籬苗紅葉あく。那。後。乃。多。本。す。れ。  
綿守持の機織るや。几。出。  
風月とあふ。落や極磨のよそへ。  
さるんつ媚てさるいり。而。席。は。真。詩。一。軸。を。ひ。ら。ひ。是。

巻之二  
四十一

見し人々

○友翰僧者本勢州之人也。有倜儻之才。嘗厭塵世。好遊方外。薙髮成僧。而常尋名山勝槩。縱意所如。遂放蕩而不拘。小節以天地為狹。而無住。廬無甍石之蓄。尺筆硯與一几而已。是蓋伯倫古靈之亞耶。于時求題一詩。因賦一律。呈 吞空友翰小師案下。

脫却黃塵吾所欲

遊無輟跡宿無家

足餐芳卉重々露

時服空霄片々霞

六十餘州元舊宅

三千世界是生涯

身心終不自雲異

坎止流行過歲華

京水島慶欽具州

三月の末  
安井の菴の  
久のりせしと

人の目小探さくもぬもむりたり

○それよりほほほほ。揚つとも。まはけりふぬ。が洛中への

これさく

左柳

乃まきり

香とちまきり都よゆづる探さ

花乃ほよこふちる遊の探さぬ

延柳

○左柳子の乃ち

○さくさくかり胡蝶よ似たり

翰柳

はははははははは

手如海宮。園花を花真し

春柳

よひ柳の傍移

花乃まふいつまらびく旅烟四

千柳

ととと。花んが

おるもも胡蝶をゆるは探さぬ

日

○元禄午病。誹仙。若月菴。似船。花のかりまうて。そや何んて

香ふ呼くも後探さ探さぬ

花乃紀やま。まきり探さぬ

若月菴 似船

けく後乃向とまきり。と後よ味つく。即真の服とまきり

まよひたる草花おぼつとほろむびり 似船

おに雀乃の呻 夕目かきふく

○智積院前運尚僧正と。宗系の大法統祖師再世の譽  
風さびく世耳の枝とつて。とらん郊小瑞應山の園林は泊如  
觀乃の氣味とくそふさいまぞうりうろ。下しぬも結縁と暮と  
推て中納言の侍宿神とくそ觀床らうく膝歩ゆるが  
信り可憐園満の大老温和八霜の眉打らうり。助老いさふ  
おほむびりうひ教養も。切神の園後より夕陽暎よかれぬ  
丁真ねうらうらむ。花お香よ袖うさあわせ

陰るこそ揃り鳴呼乃義実さり

とらんほろむとらんれど。大徳もほろむとらん。視やまことめり

○勢陽俳諧歌匠三千風居士乞得作此與之

三千界裡獨風流 一杖吟遊六十州 煩惱菩提元莫二

狂言綺語盡真修 瑞應七十七叟泊如敬書

とらんかいてるうびり。さまざうり不筆お竜乃勢成の上堂  
ゆとまらうごごご。一袂乃面自才乃祥瑞。或はよにうごご。  
懐紙おうらうらあ

